

在校生の皆さんへ（令和2年度 1学期始業式に代えて）

在校生の皆さん、おはようございます。そして、進級おめでとうございます。

4月から本校の校長として着任しました稲葉 剛です。よろしくお願ひします。この度、私を含めて11名の教職員が新しく本校に着任しました。また、皆さんがお世話になった9名の教職員がご退職・ご転出されました。本来ならば、着任式や離任式で皆さんの前で挨拶していただくところですが、学校が休業中のため挨拶していただくことが叶いません。学校が再開しましたら、改めて紹介したいと思います。

現在、新型コロナウイルス感染拡大の影響で、日本をはじめ世界中の国々が未曾有の状況に直面しています。大阪府では、感染拡大防止のため、4月8日（水）から5月6日（水）までの期間を臨時休業とし、週1～2回の登校日を設けるという措置を一旦発表しましたが、政府の「緊急事態宣言」発令をうけて、5月6日（水）までの臨時休業期間中の登校日は実施しないことになりました。行事については学校再開の状況を見ながら検討していきます。学校再開を楽しみにしていた皆さんには本当に心配、不便をかけますが、協力をお願いします。

「どんなに暗い夜でも必ず夜明けが来ます。」今は自分自身を守るための忍耐の時であると信じて、来るべき学校再開の日に備えてください。

さて、皆さんは今日から新年度となり高校生活の階段を1段あがりました。それは、より視野が広くなると同時により責任が重くなった、より社会に近くなったということの意味します。そして、3年生にはもう階段はありません。次は進学という社会に向けての扉があるだけです。

進路に関して、ある新聞のオピニオン欄に掲載されていた話を皆さんに紹介します。

「1週間ほど前、高2女子の『迫る受験期 格差に負けない』という投書を読みました。高い塾。予備校代を親に頼めないうえ、周りに受験知識や経験がある人がいないとのこと。私も塾や予備校などで勉強した経験はなく、通っていた県立高を頼りました。課題に積極的に取り組み、先生に質問し、進路資料室で受験情報を調べ、教材を借りました。塾に行けないから学校に頼ったというより、学校で十分だから塾に行かなかったという感覚で、恵まれていました。学校により事情は違うでしょうが、本来学ぶ場所は学校で、先生方は熱心に指導してくれるはず。受験勉強で一番身につくのは『自分を管理する能力』だと思います。目標大学を設定し、自分との差を認識し、近づくための計画を立て、努力する。この力をつけることこそが合格以上に大切で、将来役立ちます。・・・受験期は大きく成長でき、良い思い出です。塾などを否定するわけではないですが、自力でやり抜いたからこそ余計に感じる気がします。格差に負けないという強い思いを胸に楽しみながら勉強に励んでいただきたいです。応援しています。」

これは、「先生・学校に頼れば大丈夫」という大阪府の20歳の女子大学生の投稿です。

皆さん、どうですか。受験勉強で一番身につくのは「自分を管理する能力」、「目標を設定し、計画を立て、努力することが将来役に立つ」。私もその通りだと思います。そして、臨時休業中の今こそ、皆さんの「自己管理能力」が問われていると思います。皆さん、学校再開後は、自分の進路について、担任の先生や進路指導の先生にもっともっと相談してください。そして、「毎日の学校生活を通して、自分を管理する能力を高め、一つ上の進路をめざしてください。」

皆さんの元気な声と明るい笑顔で、暇高が満開になる日を心待ちにしています。

大阪府立四條畷高等学校長 稲葉 剛